

## まずは事前にCHECK!

### パッチテストを行いましょ!

#### テスト液の塗布

【準備】1剤と2剤を混ぜ合わせテスト液をつくります。

テスト液を綿棒にとって、二の腕の内側に10円硬貨大にうすく広げ、上から何も貼らない状態で自然乾燥させます。



これまでにヘアカラー経験がある人も、体調や体質の変化でかぶれることがあります。毎回必ず行うことが大切です。

#### 結果を確認

塗布後30分後・48時間後の2回、テスト液を塗った部分をチェック。発疹、発赤、かゆみ、水疱、刺激などが出た場合は、すぐに洗い落としましょう。



## 頭皮の健康を守るためにCHECK!

### カラーリングの前にPLUSケア

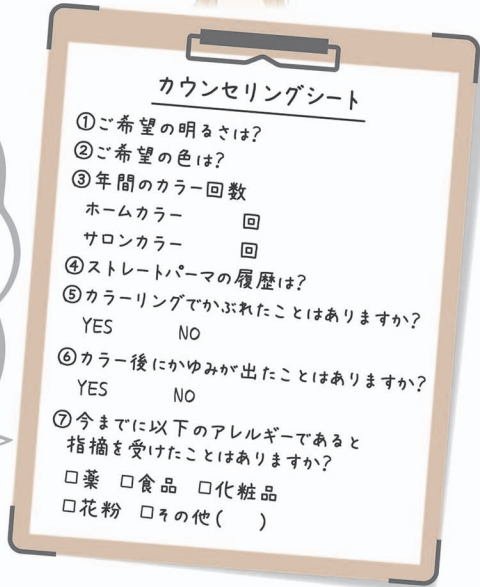
ヘアカラー剤による刺激から頭皮を保護するケアをプラスすることで、刺激やダメージから頭皮を守り、安心してカラーリングを楽しむことができます。



## サロンカラーの際にCHECK!

### 髪と頭皮の状態を事前に「カウンセリング」してくれるサロンが安心!

施術前に髪や頭皮の状態・これまでの施術履歴・普段のヘアケアの状態をしっかり把握し、最適なメニューを提案してくれるサロンが安心です。



### カラーリングを楽しみたいけど不安...

### 「ヘアマニキュア」という選択肢も

- これまでにヘアカラーによるトラブル経験がある人
- 普段から肌が敏感で不安のある人

酸化染料を含まず、髪の外側に色素を吸着させてコーティングする「ヘアマニキュア」が使えるか、サロンで相談してみましょう!

#### column

### 「ヘナ」や「草木染め」は安心?

「ヘナ」や「草木染め」と言えば、天然植物由来で安心安全なヘアカラーというイメージがあります。しかし、ヘナや草木染めの染料の中にはアレルギー性接触皮膚炎を引き起こす可能性がある酸化染料が含まれているものもあります。使用の際には十分に注意が必要です。



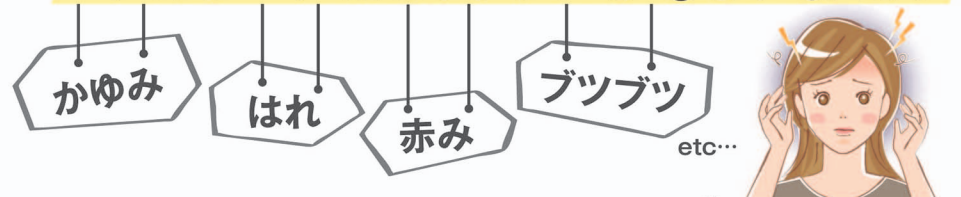
## カラー物語 イロドリ 読む美容液



## 髪のおしゃれを楽しむために... 「ヘアカラー」の正しい知識!

その症状、もしかしたら...

### ヘアカラーによるトラブルかもしれません



ヘアカラーが原因で起こる皮膚トラブルは2種類あります。

#### 1 アレルギー性接触皮膚炎

タイミング 接触してから24~48時間後

症状が現れる箇所 接触した部分だけでなく全身

#### 2 刺激性接触皮膚炎

タイミング 接触後すぐ

症状が現れる箇所 接触した部分

### ヘアカラー トラブルの原因

一般的にヘアカラーと呼ばれる「永久染毛剤」は、1剤・2剤と呼ばれる2種類の薬剤を用いて染毛します。1剤に含まれる「酸化染料」に対してアレルギーを起こしたり、2つの薬剤成分が化学反応を起こすときの刺激によって、皮膚トラブルが起こることがあります。

#### 原因:1 酸化染料に対するアレルギー反応

##### 1 剤

- 色のもととなる「酸化染料」
- 染料を浸透させるためキューティクルを開く「アルカリ剤」

##### 2 剤

- 酸化染料を酸化して発色させる「過酸化水素」

#### 原因:2 活性酸素による刺激

化学反応  
活性酸素が発生

酸化染料が発色し、髪が染まる



NEXT

ヘアカラーによるトラブルを回避するために  
大事なポイントをチェックしましょう!